

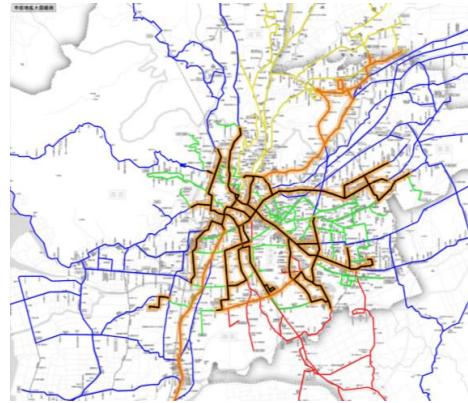
平成30年度 公共交通に関する取り組み

バス路線網再編

1) バス路線網再編

① バス路線網再編検討経費 20,000千円

ICカードの利用実態データを基に、バス事業者と連携し、区間毎の利用実態や沿線の人口分布、施設の立地状況等について、各路線のポテンシャルを把握。



凡例	
—	九州産交バス(産交バス)
—	熊本電鉄バス
—	熊本バス
—	熊本都市バス(交通局)
—	競合路線(都市バス以外の複数社が競合)
—	競合路線(都市バスと他社が競合)

需要と供給の最適化を意識したバス路線網の再編を行う。

基幹公共交通軸の強化

1) 電停改良

① 通町筋電停工事(電停本体)60,000千円【交通局】
通町筋電停の電停改良を実施。

② 辛島町電停の設計等 17,500千円
辛島電停の電停改良(電停の拡幅や、スロープ、手すり、屋根の設置等)に向けた設計。

2) 市電路線延伸検討調査

① 交通量等調査業務 25,000千円
優先的に検討している「自衛隊ルート」について、市電と自動車交通の円滑な交差点処理を検討、協議するための調査等を実施。



基幹公共交通軸である市電の機能強化に取り組む。

公共交通利用促進

1) バスの利用促進啓発経費

① バスの待合環境改善事業 300千円
バス事業者・民間事業者等との協働により、バス停近隣のコンビニ等(イトインスペース等)をバス待ちスペースとして活用。

② 路線別利用促進事業 1,900千円
特定の路線沿線地域において、停留所別のバスの時刻表、乗り方などのきめ細やかな情報提供を実施。

③ 公共交通利用促進啓発経費 450千円
公共交通事業者等が実施する公共交通機関利用促進キャンペーンに対する助成。



市民にとって…
バスの利便性が向上

バス事業者にとって…
バスの利用者が増加

公共交通の
活性化

そして商業施設にとっても…
施設利用者が増加

バスの利用環境改善や住民等への利用促進に向けた啓発を行い、地域社会全体で公共交通を支えていく環境の構築に取り組む。

その他の取り組み

- ・地方バス路線維持費助成
赤字にバス路線に対する運行費助成
- ・コミュニティ交通運費助成
ゆうゆうバス運行や公共交通空白、不便地域等への対応
- ・植木駅前ロータリー整備
植木駅前のロータリー整備に向けた設計等
- ・鉄道維持費助成
熊本電気鉄道(株)に対する、輸送設備の更新等の経費に対する助成